慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	渡辺秀樹略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2014
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.77 (2014.) ,p.213- 224
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2013年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069957X-00000077-0213

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2013年度定年退職者略歴・著作目録一覧

渡辺秀樹（わたなべ ひでき）　略歴・主要研究業績

1948年　12月26日生（新潟県糸魚川市出身）

1967年　3月　新潟県立糸魚川高等学校卒業
1968年　4月　東京大学教養学部理科2類入学
1972年　3月　東京大学教育学部卒業
1972年　4月　東京大学大学院教育学研究科修士課程入学
1974年　3月　東京大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）
1974年　4月　東京大学大学院教育学研究科博士課程進学
1978年　3月　東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学

1978年　4月　東京大学文学部（社会学専攻）助手
1983年　4月　電気通信大学電気通信学部 助教授
1990年　4月　慶應義塾大学文学部（人間科学専攻）助教授
1995年　4月　慶應義塾大学文学部 教授
1996年　4月　慶應義塾大学大学院社会学研究科委員

1993年　4月　大学学生部委員/学生総合センター学生部委員（1995.9まで）
1995年　10月　大学学生総合センター学生部門副部長（三田支部，1997.9まで）
1998年　11月　ハラスメント防止委員会副委員長（1999.3まで）
1998年　11月　ハラスメント防止委員会地区相談員（2000.10まで）
1999年　4月　慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部長（2003.3まで）
2002年　10月　慶應義塾理事（2003.3まで）
2006年　10月　慶應義塾大学教職課程センター所長（2010.9まで）
2008年　10月　ハラスメント防止委員会副委員長（2010.9まで）
2010年　10月　ハラスメント防止委員会委員長（2011.9まで）
2011年　10月　ハラスメント防止委員会顧問（現在まで）
2011年　10月　慶應義塾大学大学院社会学研究科委員長（2013.9まで）

1986年　3月　ハーバード大学社会学部訪問研究員（1986.9まで）
1998年　3月　ハーバード大学エンチン研究所訪問教授（1998.10まで）

1995年　9月　日本家族社会学会理事（2004.9まで）
1997年　9月　中央教育審議会専門委員（1999.4まで）
2006年　8月　日本学術会議連携会員（現在2期目）
2006年　10月　日本社会学会理事；IJJS編集委員会委員長（2009.10まで）
2007年　9月　日本教育社会学会理事（2011.9まで）
2008年　7月　日本家族問題研究学会会長（2012.7まで）
2009年　6月　大学基準協会基準委員（2013.5まで）
2010年　9月　日本家族社会学会会長（2013.9まで）

［賞罰］
第1回福武直賞（『現代日本の階層構造』全4巻に対し：共著者のひとりとして，1991.7）

［非常勤講師歴］電気通信大学，上智大学大学院，九州大学大学院（集中講義），共立女子短期大学，武蔵大学，日本女子大学，お茶の水女子大学，大阪大学大学院（集中講義），大妻女子大学，立教大学大学院，成蹊大学，聖心女子大学，聖徳大学（集中講義），静岡大学（集中講義），東京大学，東京大学大学院，世田谷市民大学，東京都民カレッジ，かわさき市民アカデミー，ほか。

2014年3月現在

業　績　リ　ス　ト

（著書）

1. 『少し立ち止まって，男たち』，1997，東京女性財団，共著（江原由美子・細谷実）
2. 『社会学研究シリーズ−理論と技法1；家族社会学入門―家族社会学の理論と技法』，1999，文化書房博文社，共編著（野々山久也）
3. 『働き続ける女性たち』，1999，東京女性財団，共著（上林千恵子・小笠原祐子）
4. 『変容する家族と子ども』，1999，教育出版，編著
5. 『講座社会学2　家族』，1999，東京・東京大学出版会，共編著（目黒依子）
6. 『現代家族の構造と変容：全国家族調査［NFRJ98］による計量分析』，2004，東京・東京大学出版会，共編著（稲葉昭英・嶋崎尚子）
7. 『現代日本の社会意識：家族・子ども・ジェンダー』，2005，東京・慶應義塾大学出版会
8. 『日本の家族および家族内社会化過程研究』青少年期社会化過程の国際比較研究全6冊中第3巻，2007，韓国，ソウル・青少年開発院，共著（松田茂樹，べ　じへい，椋尾麻子）
9. 『青少年の友人関係や教師との関係が社会化に与える影響』慶應義塾大学 21COE-CCC／韓国青少年政策研究院 NYPI　共同調査研究報告書，2008，研究代表者：渡辺秀樹（松田茂樹，BAE JI-HEY，青田泰明，小澤昌之）
10. 『多文化多世代交差世界における市民意識の形成』，2008，慶應義塾大学出版会，共編著（有末賢）
11. 『国際比較にみる世界の家族と子育て』，2010，ミネルヴァ書房，共編著（牧野カツ子・渡辺秀樹・

舩橋惠子・中野洋江）
12. 『いま，この日本の家族　―絆のゆくえ―』，2010，弘文堂，共著（岩上真珠・鈴木岩弓・森謙二・渡辺秀樹）
13. 『勉強と居場所；学校と家族の日韓比較』，2013，勁草書房，共編著（金鉉哲・松田茂樹・竹ノ下弘久）
14. 『モデル構成から家族社会学へ』，2014，慶應義塾大学出版会，三田哲学会叢書
15. 『越境する家族社会学』，2014，東京・学文社，共編書（竹ノ下弘久）

（論文）
1. 家族における社会化過程について−構造機能分析による理論モデル構築の試み，1975，社会学評論，第26巻1号，pp. 36–52
2. 家族と余暇，1977，松原治郎編，「余暇社会学」，垣内出版，pp. 136–157
3. 社会化とライフサイクル，1980，青井和夫・庄司興吉編，「家族と地域の社会学」，東京大学出版会，pp. 25–50
4. 個人・役割・社会−役割概念の統合をめざして，1981，思想，岩波書店，第686号，pp. 98–121
5. 役割分析の基本枠組−役割研究体系化のための一考察，1984，電気通信大学学報，第35巻1号，pp. 111–125
6. 子どもは役割をどう学ぶか，1985，麻生誠・木原孝博編，「子どもはどう育つか」，有信堂，pp. 132–153
7. 家族と子どもの社会化，1985，電気通信大学学報，第36巻2号，pp. 311–322
8. 家族システムの構造と諸相，1986，中山慶子ほか共著，「社会システムと人間」，福村出版，pp. 138–160
9. 学生の性役割観と結婚観，1988，電気通信大学紀要，第1巻1号，pp. 215–241
10. 家族と職業，1988，正岡寛司・望月嵩編，「現代家族論」，有斐閣，pp. 219–238
11. 子どもの社会化，1988，正岡寛司・望月嵩編，「現代家族論」，有斐閣，pp. 76–101
12. 思春期と父親，1988，山村賢明・児玉隆治編，「親と教師のための思春期学：3家族」，情報開発研究所，pp. 23–35
13. 家族の変容と社会化論再考，1989，教育社会学研究，第44集，pp. 28–49
14. 結婚と階層結合（全4巻で福武直賞を受賞），1989，平成元年4月，岡本英雄・直井道子編，「現代日本の階層構造4；女性と社会階層」，東京大学出版会，近藤博之との共著，pp. 119–145
15. 家族変動のなかの家族問題，1989，岩内亮一編，「社会問題の社会学」，学文社，pp. 13–32
16. アメリカの家族と福祉，1989，社会保障研究，第25巻2号，pp. 126–135
17. 社会変動と父親世代の生涯学習，1991，「社会教育」，46巻536号，pp. 7–13
18. 21世紀の家族像―父親の発見，1991，「教育と情報」，402号，pp. 2–7
19. 結婚の動向，1992，東京都職員研修所「行政管理―都市と家族」，368号，pp. 24–31
20. 家族と社会化研究の展開，1992，「教育社会学研究」第50集，pp. 49–65
21. 家族と社会化，1992，柴野昌山・菊池城司・竹内洋編，「教育社会学」，有斐閣，pp. 126–142
22. 家族ライフイベントのゆくえ，1993，「家族社会学研究」，第5号，pp. 67–74

23. ひとり親家族と現代の家族問題，1993,「子どもと家庭」，267号，pp. 35–41
24. 親と子どもから見た家族の変化，1994,「青少年問題」，41巻，1号，pp. 9–15
25. 教育とジェンダー，1994，目黒依子編,「ジェンダーの社会学」，放送大学教材，pp. 29–37
26. 変化する家族―親子関係優先から夫婦関係優先へ，1994,「望星」，25巻6号，pp. 24–29
27. 今，ひとり親家族をめぐって，1994,「子どものしあわせ」，50号
28. 家族生活，1994，連合総合生活開発研究所,「しあわせの未来形―2020年への選択」，pp. 146–157
29. 現代の親子関係の社会学的分析-育児社会論序説，1994，社会保障研究所編,「現代家族と社会保障」，東京大学出版会，pp. 71–88
30. 現代家族，多様化と画一化の錯綜，1995,「家族・看護・医療の社会学」，SANWA. Co，pp. 47–66
31. 教育する親から教育を手配する親へ―教育力の低下と教育過剰，1995,「児童心理　8月号臨時増刊　日本の子ども　いまこれから　戦後50年から21世紀へ」，pp. 74–80
32. 家族の変容と多様性，1996,「JIL リサーチ」 日本労働研究機構，23号，pp. 18–21
33. 父親の育児不安―シングルファーザーの問題に焦点をあてて，1996,「現代のエスプリ・子育て不安・子育て支援」至文堂，342号，pp. 165–171
34. 家族の教育機能の変容と新しいかたち，1996,「教育展望」7／8月号，pp. 38–47
35. 母親が子どもに望むこと―M. コーン他の parental value に関連して，1996,「児童心理4月号　臨時増刊　」，金子書房，pp. 44–54
36. 子どもの養育環境の複雑性と単純性，1997,「教育と医学」，45巻7号，pp. 44–50
37. 社会化とフェミニズム，1997,「教育社会学研究」，61集，pp. 25–37
38. Transformations of Family Norms ; parent's expectations of their children's family life style, 1997，平成9年12月,「哲学」，三田哲学会，102集，pp. 203–213
39. 流動化社会における子どもの社会化，1998,「子ども学」，ベネッセ，18号，pp. 92–99
40. 子どもと家族の近代，1998,「アエラ　ムック　家族学のみかた」，pp. 88–91
41. 家族発達的研究：家族周期・ライフサイクル・ライフコース，1999，野々山久也・渡辺秀樹編「家族社会学入門―家族研究の理論と技法」，文化書房博文社，pp. 95–115
42. 戦後日本の親子関係，1999，目黒依子・渡辺秀樹編「講座社会学2　家族」，東京大学出版会，pp. 89–117
43. 発達社会学から見た親子関係，2000，藤崎宏子編,「親と子―交錯するライフコース」，ミネルヴァ書房，pp. 42–58
44. 家族的経験の変容と人間形成，2000，調査報告　現代日本人の生き方，上広倫理財団，pp. 39–61
45. 結婚市場の変容，2000，盛山和夫編「日本の階層システム4　ジェンダー・市場・家族」東京大学出版会，志田基予師・盛山和夫との共著，pp. 89–117
46. transformation of family norms; parent's expectations of their children's family life style，2001，Myers-Walls, J. A. & P. Somlai（eds.）"*Families as Educators for Global Citizenship*", Ashgate Publishing Ltd.，pp. 81–90
47. NFR98の思想，2001，家族と職業，日本家族社会学会全国家族調査研究会，pp. 79–88
48. 家族と出会う，2003，宮島喬・島薗進編，現代日本人の生のゆくえ―つながりと自律，藤原書店，pp. 187–228

49. 社会学からみる父親・家族，2004，『助産学講座3　母性の心理・社会』，医学書院，pp. 89–119
50. 変容する家族と教育機能，2004，『助産学講座3　母性の心理・社会学』，医学書院，pp. 121–133
51. 学校と家族，2004，清水浩昭ほか編『家族革命』，東京・弘文堂，pp. 158–166
52. 書評セッション：『現代家族の構造と変容：全国家族調査［NFRJ98］による計量分析』・特集に寄せて，2005，家族社会学研究，17巻1号，pp. 7–9
53. 現代日本のパートナーシップ，2005，柴田編『恋の研究』，東京・慶應義塾大学出版会，pp. 305–323
54. 親の教育力は低下したのか，2006，教育と医学，54巻9号，pp. 38–46
55. 戦後日本の親子関係，2006，広田照幸監修 『リーディングス　日本の教育と社会3　子育て・しつけ』（アンソロジー／再録），日本図書センター，pp. 342–364
56. 『地方都市』再訪序説，2007，『社会学の饗宴　II　逍遥する記憶』，三和書籍，pp. 437–467
57. 家庭の教育力を支える社会，2007，社会教育，62巻12号，pp. 8–12
58. IT型コミュニケーションと拡散的核家族―情報化と家族の変化のなかの社会化，2008，『多文化多世代交差世界における市民意識の形成』，慶應義塾大学出版会，pp. 97–112
59. 家族意識の多様性，2008，社会学年誌，49号，早稲田社会学会，pp. 39–54
60. 糸魚川押上百霊廟の考察―銅板碑文ほか，2008，糸魚川郷土研究，3号，糸魚川郷土研究会，pp. 129–135
61. 社会的役割，2009，『新・社会福祉士要請講座 3 社会理論と社会システム』，中央法規，pp. 133–145

（論文（総括・レビュー））

62. 第2期解説，2009，戦後家族社会学文献選集　解説・解題，日本図書センター，pp. 109–120
63. 社会調査に見る子ども観の変遷，2011，「哲学」：慶應義塾150年記念論文集＜自省する知：人文・社会科学のアクチュアリテイ＞，127巻，三田哲学会，pp. 257–277
64. 社会調査に見る子ども観の変遷，2011，慶應義塾大学三田哲学会編，『自省する知』，慶應義塾大学出版会，pp. 257–277（上記64の再録）
65. 老川家族社会学の形成過程とその特徴，2011，家族研究年報，36巻，家族問題研究学会，池岡義孝・木戸功と共著，pp. 121–139
66. 変容する男性の子ども観，2012，『揺らぐ男性のジェンダー意識：仕事・家族・介護』，新曜社，pp. 72–87
67. 戦後家族の希望と，そのゆくえ，2013，山岸健ほか編『希望の社会学』，東京，三和書籍，pp. 99–113
68. 多様性の時代と家族社会学―多様性をめぐる概念の再検討―，2013，家族社会学研究，25巻1号，日本家族社会学会編，pp. 7–16
69. 家族意識の変化と少子化，2007，人口減・少子化社会の未来，明石書店，pp. 215–241
70. 家族意識の変化と少子化（69の韓国語翻訳），2008，人口減・少子化社会の未来，韓国，ソウル
71. 現代家族のありかたと子どもの“じりつ”，2011，子どもロジー，15巻，北海道子ども学会，pp. 4–13

（学会発表）

1. 発達的課題の社会学的再構成，1974，日本教育社会学会第6回大会
2. 階層と価値志向 「職業と人間」調査の分析，1981，日本社会学会第54回大会
3. 職業的諸条件と心理的機能，1982，日本社会学会第55回大会，直井優・平田周一との共同発表
4. 家族研究への役割理論の適用とその限界，1983，第6回家族社会学セミナー
5. 配偶者選択における職業連関 1985SSM女性データの分析，1989，家族問題研究会
6. 母親の就労と育児援助について 「母親の就労を中心とした社会参加と親役割に関する調査」より，1990，日本教育社会学会第42回大会，牧野暢男・牧野カツ子・綿引伴子・千葉聡子・中原由里子
7. 親と子　社会学の視点から，1991，比較家族史学会第19回大会
8. 社会学から見た現代家族，1992，労働経済研究会
9. 家族ライフイベントのゆくえ，1992，家族社会学会第2回大会
10. 女性と社会，1992，第12回国際シンポジウム「女性と社会」国際基督教大学社会科学研究所・上智大学社会正義研究所，パネリスト
11. ひとり親家族の研究，1993，家族問題研究会
12. 現代家族と教育問題　少子化をめぐって，1993，日本教育学会第52回大会シンポジウム，指定討論者
13. Diversities of Family Norms，1994，平成6年12月，Families as Educators for Global Citizenship: UNESCO SYMPOSIUM, BUDAPEST
14. 子どもと家族，1998，家族社会学会大会シンポジウム，指定討論者
15. 男女共同参画の視点に立った家庭教育の諸課題，1998，ヌエック国際フォーラム
16. ケータイがもたらす家族の変化，2005，日本学術会議社会学研究連絡委員会公開シンポジウム：ケータイをめぐる若者文化と社会の変化，日本学術会議
17. 親密な関係に潜む女性への暴力：韓国との政策比較からみえてくる日本の課題，2005，ジェンダー平等達成における男性の役割，福島県男女共生センター
18. Youth and Families in Japan，2006，Socialization Process of Youth Within the Family–comparative Studies of 5 Countries: Korea, Japan, America, Germany, Sweden，Korea, Cheju，Korea Institute for Youth Development
19. 糸魚川押上地区百霊廟について，2006，糸魚川郷土研究会
20. High School Students' Educational Aspiration and Their Family Background in South Korea , Japan, and the U. S.，2007，International Conference on Changing Family Relationships & Socialization in Adolescence，Soeul, Korea，Korea Institute for Youth Development, Korean Sociological Association，with; MATSUDA SHIGEK, BAE JI-HEY
21. International Comparative Study on Fathers' Child Care，2007，National Council on Family Relations, 69th Annual Conference，Pittsburgh, USA，NCFR，with;Makino katsuko, Keiko Funabashi, Hiroe Nakano, Kazufumi Sakai, Takashi Fujimoto, Nami Ohtsuki, Sae Etoh
22. 家族的背景が教育アスピレーションに与える影響，2007，第80回日本社会学会大会自由報告，日本社会学会，松田茂樹・べ智恵・渡辺秀樹

23. 現代家族の多様性―国際比較調査から，2008，日本家族看護学会第15回学術集会，慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス，日本家族看護学会
24. Research Framework of International Comparative Investigation for Youth，2008，International Comparison of Adolescent's Socialization between Japan and Korea, Seoul Kyoyuk MunHwa Hoe-Kwan（Seoul Education Culture Center），NYPI（national youth policy institute: Korea）GCOE-CGCS（The center of Governance for Civil Society: Keio）
25. Changing family norms in six countries，2008，annual meetings of the National Council on Family Relations, Little Rock, AR., with; FUJIMOTO TAKASHI
26. 青少年の社会化の日韓比較研究―研究の枠組み，2008，第81回日本社会学会大会，東北大学（仙台），日本社会学会
27. コメント：若者問題への接近―誰が自立の困難に直面しているのか―，2009，労働政策フォーラム：若者問題への接近―誰が自立の困難に直面しているのか―，東京，JILPT霞ヶ関連絡事務所会議室，労働政策研究・研修機構・日本学術会議
28. コメント：若者の就業と家族形成に何が起こっているのか？―労働・ジェンダー・親子関係の視点から―，2009，日本人口学会第61回大会シンポジウム，関西大学，日本人口学会
29. 国際比較調査をどう読み解くか―家庭教育6カ国比較調査を行って1，調査方法の諸問題，2009，第19回日本家族社会学会大会，奈良女子大学
30. 現代家族のありかたと子どもの“じりつ”，2010，北海道子ども学会，第15回大会
31. International Comparative Study on Family Norms: changing family norms and/or retaining family norms，2010，International Conference: Family as a Value in terms of Religion, Tradition, and Modernity, Rixos Tekirova Hotel & Convention Center, Antalya/Turkey, The Journalist and Writers Foundation
32. 新潟の共同墓の事例，2011，2010年度第2回JGSSリサーチ・セミナー「日本人の宗教意識と墓問題」，大阪，大阪商業大学JGSS研究センター
33. Parental Involvement and Student's Grade in Japan and Korea，2011，International Sociological Association, RC06―CFR Kyoto Seminar, Kyoto, with; Hirohisa Takenoshita, Jihey Bae, Shigeki Matsuda
34. 会長講演；多様性の時代と家族社会学，2012，第22回日本家族社会学会大会，東京，お茶の水女子大学
35. コメント；青井和夫先生の家族／ライフコース研究，2013，家族問題研究学会2012年度第3回例会，東京，明治大学

（その他）

1. 訳書：フィッシャー　言語的社会化　日本とアメリカ，1976，松原治郎・牧野カツ子編「しつけの功罪」至文堂，現代のエスプリ，113号，pp. 198–208
2. 国際比較　日本の子どもと母親，1981，総理府青少年対策本部国際児童年記念事業（青井和夫・門脇厚司・児島和人・福島章），pp. 112–120, 214–224
3. 老人の生活と意識　国際比較調査結果，1982，内閣総理大臣官房老人対策室　（丹下隆一・今田

幸子・小林良二・副田あけみ・樽川典子・林洋一），pp. 60–86
4. アメリカにおける家族構造と機能の変貌，1983，総合研究開発機構委託研究　日本総合研究所（塩田長英・内田篤子），pp. 279–375
5. 平凡社大百科事典編集委員，1984，昭和59年11月，地位・身分・役割の3項目執筆
6. 川崎市の児童の校外生活と留守家庭児事業（学童保育）に関する調査報告，1985，川崎市留守家庭児問題研究協議会（田村健二・岡田守弘・牧野カツ子・清原慶子）
7. 日本のシンクタンク，1985，東京大学新聞研究所（高橋徹・佐藤健二・松本三和夫・武川正吾・高田昭彦・安立清史・山田昌弘・中山慶子との共著）．1–27（高橋徹との共同執筆），153–171（山田昌弘との共同執筆）
8. 新教育社会学辞典編集委員，1986，日本教育社会学会編集，17項目執筆
9. 1985年社会階層と社会移動全国調査報告書　第4巻　女性と社会階層，1989，1985年社会階層と社会移動全国調査委員会（岡本英雄・平田周一・今田幸子・岩永雅也・谷口吉光・肥和野佳子・直井道子・橋本健二），pp. 97–116
10. 母親の就労を中心とした社会参加と親役割に関する調査，1990，東京都生活文化局（牧野暢男・牧野カツ子・長津美代子）
11. 家族変動の実態　現代家族をどう捉えるか，1990，社会保障研究所「21世紀の社会保障に関する研究〈家族の変容と社会保障分科会〉」研究報告no. 9003，pp. 14–23
12. 中学生の母親　アメリカの母親との比較，1991，平成3年12月，総務庁青少年対策本部「青少年の校外活動と家庭に関する国際比較調査」報告書，pp. 65–84
13. ひとり親家族に関する研究，1993，東京女性財団　女性問題調査研究報告（庄司洋子・大日向雅美との共著），全231頁。
14. 指定討論；少子化と育児負担感の構造的意味，1994，教育学研究，61巻1号，pp. 34
15. 変化する社会と家族；父親の変容と課題，1994，教育家庭新聞，1405号
16. 共働きと子ども・ひとり親家族と子ども，1994，日本子どもを守る会編，子ども白書：家族と子どもの権利，pp. 106–109
17. 座談会　夫婦の社会学，1994，三田評論
18. グループ・インタビュー，1995，三色旗，563号．pp. 43
19. 子育てをどう充実させる，1995，今週の日本，2月27日
20. 家庭教育に関する国際比較調査報告書　子どもと家庭生活についての調査，1995，日本女子教育会，全317頁（牧野カツ子・原ひろ子・杉山明子・清水弘司）
21. 「女性の地位指標に関する研究会報告」研究会委員，1995，労働省・労働リサーチセンター（今田幸子・大沢真理・笹島芳雄・平田周一）
22. 時間と空間と制御のなかの現代家族，1995，家族社会学研究，7号，テーマセッション：「国際家族年と現代家族」の司会を終えて，pp. 45–46
23. シンポジウム　6カ国の比較からみた日本の家族　日本の家族，1995，女性教養，513号（牧野カツ子・清水弘司・杉山明子・原ひろ子），pp. 3–6
24. 揺れ動く家族，1995，日本子どもを守る会編，子ども白書，pp. 150–153
25. 父母の子育て経験：国際比較調査から，1995，明日の家庭教育シリーズ2，文部省，pp. 26–31

26. 子離れ育児のすすめ，1995，幼児開発協会，幼児開発，305号，pp. 82–89
27. 座談会；新しい家族のかたち，1995，月刊福祉，78巻10号（萩原康生・松村由利子・網野武博），pp. 12–27
28. 父親であることから父親をすることへ，1996，『明日の家庭教育シリーズ3　父親を考える』，文部省
29. 少産化時代の母親意識に関する総合的研究，1996，平成7年度科学研究費総合A報告書（目黒依子・岡本英雄・江原由美子・直井道子・船橋恵子・山田昌弘・村松泰子・矢沢澄子）
30. 転換期の家族社会学，1996，家族社会学研究，8号，シンポジウムの司会にあたって，pp. 3–5
31. 社会学の中心と辺境　家族社会学と教育社会学，1996，三田社会学，創刊号，pp. 14–15
32. 日本の青少年の生活と意識　青少年の生活と意識に関する基本調査報告書，1996，総務庁青少年対策本部，pp. 167–177
33. 友達親子の社会的背景，1997，子ども学，14号，pp. 111–118
34. 社会学的ジェンダー研究への誘い―映画に見る父親の意味の変容を例として，1997，三色旗587号，pp. 21–26
35. 地域社会における青少年の社会参加と，これを実効あらしめるための諸条件について，1976，総理府青少年対策本部委託研究青少年問題研究調査報告書（松原治郎・中山慶子），pp. 19–28, 46–52, 95–103
36. 女性問題研修プログラム開発報告書，1997，東京女性財団，全62頁。男性のためのジェンダーフリー読本作成にあたって（江原由美子・細谷実）
37. 学校・家族・地域社会とマクロな社会システムとの連携，1997，教育研究，52巻5号，pp. 25–27
38. 新しい父親像を求めて，1997，子ども未来，311号，pp. 10–11
39. 座談会；家庭が果たす役割，1997，明日の家庭教育シリーズ4　家庭ではぐくむ生きる力，文部省（有馬朗人・西田百合子）
40. 家族や地域における男女共同参画，1997，社会教育，614巻，pp. 12–14
41. 単純化する家族関係，崩れる地域社会，1997，子ども未来，315号，特集；少子化が我が国の経済・社会に及ぼす影響，pp. 11–14
42. 座談会；これからの教育　家庭・学校・社会の役割，1998，三田評論，999号（本吉修二・恒吉僚子・斉藤學の各氏と），司会。pp. 12–24
43. 結婚と階層の趨勢分析，1998，1995年SSM調査研究会シリーズ15　渡辺秀樹・志田基予師編「階層と結婚・家族」，pp. 113–130
44. 子どもの声に耳を傾ける，1998，明日の家庭教育シリーズ5　親の子離れ，子の自立，文部省，pp. 42–45
45. ワーキングファーザー，1998，MOVE，第5号，練馬区生活文化部女性課，コラム，pp. 6
46. 社会のなかの「家族」を考える，1998，プレス，3号，インタビュー，pp. 20
47. 父親の育児参加を考える，1998，これから，286号，波多野ファミリースクール，pp. 3–15
48. 父親をすることの意味，1999，ヌエックニュース，84号，国立婦人教育会館，pp. 1–2
49. 講演 子どもの「生きる力」と家族・地域，1999，平成10年度家庭教育推進事業のまとめ，愛知県教育委員会，pp. 4–18

50. 変わりつつある父母の役割-父親存在の意味を問う，1999，女子教育，22号，目白学園女子短期大學，シンポジウム（三沢直子・清水弘司），pp. 115–141
51. 「楽しもうよ，子育て，家族」のために，1999，MOVE，6巻，練馬区生活文化部女性課，pp. 4
52. 父親と家庭教育，1999，ウィル，6号，財団法人あいち女性総合センター，pp. 12–13
53. 女性がいま，働くこととは，1999，三田評論，港区民大學講座の講演要約，pp. 46–54
54. 変化する家族への社会学的接近，2000，三色旗，pp. 31–35
55. 変化する社会のなかの親と子，2000，家族研究，兵庫県家庭問題研究所，pp. 13–26
56. 公開座談会；子どもはどこで社会性やルールを身につけるのか？，2000，CRN child research net，ベネッセ（藤田英典 牧野カツ子），pp. 70–81
57. 歴史的変化の視点に立った家庭教育の諸課題，2000，東京都教育庁生涯学習部社会教育課 「平成11年度家庭教育に関する研究報告書」，pp. 12–21
58. 戦後「父子関係」の変遷と，お父さんの明日，2000，望星，望星ライブラリー，vol. 3「負けない中年！」，2001，に再録。pp. 22–27
59. 男女共同参画社会と憲法，2000，練馬区報
60. 社会の変化と共生の教育，2000，教育展望，pp. 4–11
61. シンポジウム“空洞”に生きる子どもたち，2000，コ・ド・モ，赤ちゃんとママ社（大沢真知子 大平健）
62. 専業主婦，いまギリギリの「幸福」，2000，望星，pp. 42–47
63. 「重大少年事件の実証的研究」，2001，家庭裁判所調査官研修所（共同研究）
64. 家族の変化，形・機能・意識の変化が子育てに及ぼしているもの，2001，子ども未来，pp. 20–21
65. 全国家族調査　特集に寄せて，2001，家族社会学研究，pp. 5–7
66. 「思春期の子どもと向き合うために」，2001，文部科学省（座長）
67. 骨太な人間の形成，2001，コミュニティ，128号，pp. 83–85
68. 書評：清水新二編「家族問題；存続と危機」，2002，社会学評論52巻3号，pp. 85–86
69. 生きる力を育む，2002，教職研修，353号，pp. 11–13
70. 学校と家庭のパートナーシップ，2002，教育展望，48巻2号，pp. 28–33
71. 子は夫婦のかすがい？，2002，三色旗，653号，慶應義塾大学通信教育部，pp. 1
72. いま，がまんのしつけをどうするか?豊かさと少子化のなかで，2003，児童心理，57巻2号，pp. 10–15
73. 「子どもの社会」と「大人の社会」，2003，コミュニティ，132号，pp. 6–8
74. 父親を考える，2004，日本教材文化研究財団研究紀要，33号，pp. 10–15
75. 座談会；日本の家族は再生するか，2004，コミュニティ，133巻，地域社会研究所，pp. 10–59（落合恵美子・牧野カツコ・重松清・渡辺秀樹（司会））
76. 次世代を育む力の喪失，2004，三色旗，675号，pp. 14–18
77. 『親密な関係に潜む女性への暴力：韓国との政策比較から見えてくる日本の課題』，2005，福島・福島県男女共生センター：平成15/16年度公募研究成果報告書，福島県男女共生センター（研究代表者・渡辺秀樹）
78. 『平成16年度・17年度　家庭教育に関する国際比較調査報告書』，2006，国立女性教育会館，pp.

119–141

79. 書評；小泉信三『海軍主計大尉小泉信吉』，2006，三田評論，pp. 34–35
80. 家族と父親，2007，月刊福祉，90巻12号，pp. 78–79
81. 書評：「家族社会学のパラダイム」，目黒依子書，2007，図書新聞，2844号
82. 家族と父親　2，2007，月刊福祉，90巻13号，pp. 82–83
83. 書評：「現代家族のパラダイム革新」，野々山久也著，2007，社会学評論，58巻3号，pp. 384–386
84. 家族と父親　3，2008，月刊福祉，91巻1号，pp. 82–83
85. 座談会：少子高齢化時代の多様な家族のあり方，2008，三田評論，1111号（渡辺 秀樹，鈴木光司，中島隆信，犬伏由子，原礼子），pp. 10–23
86. 監修；『戦後家族社会学文献選集　第1期　全10巻』，2008，日本図書センター（渡辺秀樹・池岡義孝）
87. 家族と父親，2008，世界の児童と母性：［特集］父親・父性と子ども，65巻，資生堂社会福祉事業財団，pp. 19–22
88. 書評：大和礼子／斧出節子／木脇奈津子編『男の育児・女の育児』，昭和堂，2008，図書新聞，2889号，pp. 5
89. 対談；父親像の広がりとこれから，2009，家計経済研究，81号，家計経済研究所（渡辺 秀樹・永井暁子），pp. 2–15
90. 親子関係の変化：親と子どもの距離をどう取るか，2009，楽園，35巻，pp. 46–49
91. 監修；『戦後家族社会学文献選集　第2期　全10巻』，2009，日本図書センター（渡辺秀樹・池岡義孝）
92. 座談会：日本の親子はどう変わったのか，2009，コミュニテイ，143号，地域社会研究所（渡辺秀樹，多賀幹子・鈴木岩弓・呉善花・（司会）渡辺秀樹），pp. 10–61
93. 座談会：福沢諭吉に学ぶ，家庭の役割，2009，三田評論，1124号（橋本五郎・渡辺秀樹・加藤三明・西澤直子），pp. 10–25
94. 変化する社会のなかの家族と学校，2009，第一回女子教育連続講演会「女子校の未来を拓く」，鴎友学園女子中学高等学校，pp. 74–89
95. 鼎談；コミュニテイ科学の可能性と課題，『コミュニテイ科学：技術と社会のイノベーション』，2009，勁草書房（渡辺秀樹，金子郁容，宮垣元），pp. 193–208
96. 少子化と子育て，2010，第3回　ひたち学への招待・日立市少子化対策フォーラム―少子高齢社会と〈ひたち〉―，日立市・茨城キリスト教大学
97. 『科研費基盤（B）報告書：青少年の社会化ネットワークと教育達成に関する日韓比較研究』，2011，516pp.
98. Opening remarks for ISA RC06—CFR Kyoto Seminar “Reconstruction of Intimate and Public Spheres in a Global Perspective”，2011，ISA RC06—CFR Kyoto Seminar 2011
99. 家族の文化―子ども観から見る若者の自立，『二極化する若者と自立支援』，2011，明石書店，pp. 50–55
100. 座談会；大災害に見る家族，地域，人とのつながり，2011，三田評論，1151号（鈴木岩弓・戸松義晴・原礼子・渡辺秀樹），pp. 10–27

101. 裁判の迅速化に係る検証に関する検討会（第43回），ヒアリングにおける報告「規範と実態から見る現代家族」，2011，最高裁判所
102. 座談会；復興・再生のために「つなぐ」，2012，コミュニテイ，148号，地域社会研究所，pp. 10–53
103. コメンテーター；労働政策フォーラム；若者は社会を変えるか―新しい生き方・働き方を考える―，2012，Business Labor Trend，450号，労働政策研究・研修機構（渡辺秀樹，本田由紀・有喜衣・菅野拓・高成田健・藤沢烈・宮本みち子）pp. 28–29, 35
104. 現代型家族の問題点について；社会教育が地域のためにできること，2013，平成24年度『社会教育委員活動記録』，東京都市町村社会教育委員連絡協議会，pp. 56–71
105. 巻頭言；家族形成の多様性，2013，日本労働研究雑誌，638号労働政策研究・研修機構，pp. 1
106. 事典項目；全国家族調査（NFRJ），2014，『社会調査事典』，東京・丸善出版，社会調査協会，pp. 682–683

（新聞・雑誌等（書評・論評等））

107. 書評：山根常男著「家族と人格　家族の力動理論をめざして，1988，家族問題研究会「家族研究年報」13号，pp. 96–99
108. 書評：柴野昌山編「しつけの社会学」，1990，児童心理，pp. 806–807
109. ひとり親家族の現在，1994，日本教育新聞社，週刊教育資料，383号，pp. 24–25
110.「家庭と社会に関する意識と実態調査」報告書，調査委員，1994，経済企画庁国民生活局編（目黒依子・正岡寛司・北村節子ほか）
111. サポーティブ・ディタッチメント，1995. 10，日本経済新聞夕刊，婦人家庭欄
112. シンポジウム；子どもの発達と父親の役割，1994，（財）小平記念会・家庭教育研究所　家庭教育，（牧野カツ子・細谷亮太・千石保・柏木恵子氏と），24–59.（柏木・中野・牧野編「子どもの発達と父親の役割」に再録），pp. 24–59
113. 21世紀へ向けて　変わりゆく家族と私たち，1994，豊島区女性センター，国際家族年シンポジウム，エポック・メイクーno. 6（アグネス・チャン，福島瑞穂，村松泰子各氏と）。
114. 海外研究動向　地球市民の教育機関としての家族，1995，家族研究年報，20号，ユネスコシンポジウムに参加して（ブダペスト，ハンガリー），pp. 93–97
115. 地球市民の教育機関としての家族，1995，女性教養，512号，ユネスコシンポジウムに参加して，（114と1部重複），pp. 3–6
116. 書評；清矢良崇著「人間形成のエスノメソドロジー」，1995，教育社会学研究，57集，pp. 191–192
117. 対談；漂流する家族，1998，遊宇宙，15号，特別区資料室（木本喜美子）
118. 公開座談会；子どもはどこで社会性やルールを身につけるのか？，2000，CRN child research net　ベネッセ（藤田英典・牧野カツ子），pp. 70–81
119. 書評：矢澤澄子・国広陽子・天童睦子『都市環境と子育て：少子化・ジェンダー・シティズンシップ』，2004，社会学評論，55巻1号，pp. 75–76
120. 書評：本田由起編『女性の就業と親子関係』，2005，教育社会学研究，77巻，pp. 69–71

以上